

Letters

レターズ / 加入者や保護者の皆さんから寄せられたお便りをご紹介します。

茨木県

F・Hさん（母）

息子の中学入学に際し、橋本給付金を賜わり誠に感謝しております。ありがとうございました。

主人が亡くなったときまだお腹の中にいた子が、無事入学ができ、感動でいっぱいです。コロナ禍ではあるものの入学式も開催され、息子のブカブカな制服姿も見ることができました。生徒代表挨拶は中3になった娘が行い、その立派な姿にまた感動しました。

皆様の支えがありこうして家族で過ごすことができ、とても嬉しく思っております。この度は誠にありがとうございました。

埼玉県

S・Mさん（母）

ここ1年、コロナ禍で大学生となってもなかなか友達同士集まり、語らうことのできなかった娘とBTSを見ながらお酒を飲んでいます。そんな時、ふと娘が話してくれた一言がとても嬉しく、お便りします。

娘が先日友達から受けた悩み相談の報告でした。父が日本人で母が中国人、自分はとても幸せで不自由はないのだけれど、自分が半分の人のような気がするとの悩みを打ち明けられたとのことでした。

その友人に、私は小さいときに父を亡くした、周りから見たら片親なので可哀想な子なのかもしれない、でも半分の人と思ったことはない、人は考え次第でいくらでも幸せでいられると思うよ、人生マイナスなことと思われることでも、プラスに考えてしまえば、見え方が変わってくると思うんだ、と話したとのこと。

今までとても楽しいことばかりでしたが、母として救われた気持ちがありました。

秋田県

K・Yさん（母）

この度は高校進学にあたり、お祝いをありがとうございます。無事、亡父と同じ高校に入学となりました。夫にも親子で同じ学び舎に通うところを見てもらいたかったのですが、元気にまっすぐ育っているところを空の上から見てくれていると思います。

「橋本給付金」としていただいた貴重なお祝い金を高校生活のため、有意義に使わせていただきます。いつも皆様の心遣いをありがたく感じております。本当にありがとうございました。

神奈川県

H・Aさん（加入者）H・Jさん（母）

♡加入者さまより

多くの方々の支えがあり、今日まで何不自由なく生活できていることにとても感謝しています。ありがとうございます。たくさんの素敵なお縁に恵まれ、私は毎日とても充実した生活を送っています。育成基金をもとに父が教えてくれたサッカーを続け、大学に行って学ぶことができます。

これからはより感謝の気持ちを表せるようにしていきたいです。そして父が愛したサッカーを、父の分まで楽しんでいきたいと思います。

♡お母さまより

今まで大変お世話になりました。

果てしなく続く他界した主人の手続き。フラフラになっていたところ、役所の入口に育成基金のパンフレットがあり、何か私たちを助けてくれるのではないかと恐る恐る電話をしたことを思い出しました。

この基金をもとに娘は大学へ。また、好きなサッカーも続けられています。感謝しかないです。皆様も、いつかは夜が明けます。心も体も大切に。



奈良県 O・Yさん（母）

最近よく「ヤングケアラー」という言葉を耳にします。この言葉を聞いたときに、高校1年生の長男もその一人であろうと思わざるを得ません。

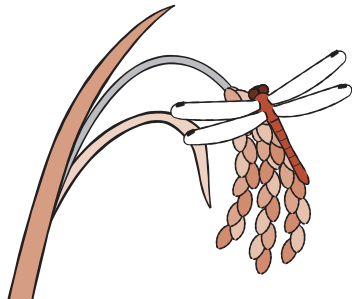
夫は長男が保育園の年中組、次男が生後20日足らずのときに亡くなりました。当時のことは、おかしな言い方になりますが、はっきり覚えているようで、あまり覚えていません。倒れこみたいのに無意識に体が動き、言われるがままに事を進めていたように思います。

お葬式で棺が火葬炉に入るとき、それまで全く涙を見せなかった長男が、堰が切れたように「おとーさん」と泣き叫んだことは覚えていて、その声は未だ耳から離れません。それ以後は、父親がいないことで涙を流したことは数回しかありません。泣くに泣けなかったのでしょう。母（私）は生後間もない次男に手がかかっている上に、時折ヒステリックに怒ったり泣いたりと不安定になってしまい、甘えることができなかったのですから。

私は友人の手を借りて長男を多方面へ遊びに連れて行ってもらったり、お稽古事をさせたりしました。その間、私は家で次男のお世話。外に出て遊ぶことで、長男は寂しい思いをしなくていいと考えたからです。

小学校に入学すると、長男は私が仕事から帰宅するまでの間にご飯を炊き、お布団を敷き、洗濯物を取り込むようになりました。私は大変助かっていましたが、家事をしなくては母（私）に認めてもらえないという気持ちを植え付けていたのかもしれませんが。これはきっとヤングケアラーに値するのでしょう。

今振り返ると一緒にいてあげべきは長男だったと痛感しています。父がいなくなった寂しさを外ではなく、母に求めさせてあげれば良かったのです。だから、今になって家より外へ癒しを求めているのでしょう。過ぎたことを悔やんでも仕方ありませんが、私は母親失格だと情けなくなります。「ヤングケアラー」という言葉を聞いたときに、長男に申し訳ない気持ちでいっぱいになります。



匿名希望さん

未だ絶望の中にいる私たちに、あたたかい気持ちのもと助けてくださる会があり、心より感謝申し上げます。

子ども達が成長し、自分にいろいろな面でゆとりが作れるようになったら、何らかのかたちで恩返しをさせていただきたいという気持ちでおります。

東京都 K・Nさん（加入者）K・Aさん（母）

♡加入者さまより

高校進学のお祝い金、図書カードをありがとうございます。高校では勉学に励み、学校生活を楽しんでいこうと思っています。

♡お母さまより

コロナ禍にくじけることもなく、娘は高校受験も無事に終わり、行事もままならなかった中学生活の分も思い切り楽しい高校生活になることを祈らずにはいられません。

橋本むつさんに感謝するとともに、育成基金の広報誌を毎回楽しみにしています。いつもありがとうございます。交通事故で家族を亡くす方がいなくなる世の中になることを、願ってやみません。

和歌山県 Yさん（母）

先日学校でコロナが大流行し、ついに息子も感染してしまいました。

隔離生活中に息子の誕生日を迎え、何のお祝いもできませんでしたが、おじいちゃんおばあちゃんのごちそうを持って家に届けてくれました。いつも側で支えてくれると感謝していましたが、今回のことで更に感謝の気持ちが溢れました。

私たち親子は本当に周りに支えてもらい、幸せ者だとコロナを通して再確認できました。



となりのレターズ

みんながとなりに寄り添う
「もう一つ」の Letters

連載第4回は、前号と同様に基金を卒業された保護者様にお話を伺いました。ご登場いただいた Mさんは3人のお子さんの母親で、現在52歳。17年前にご主人を亡くされたとき、一番下のご次男は1歳半だったそうです。現在、ご長男は大学進学後、就職して自立。ご長女は音大生で、ご次男は画家を目指していらっしゃるとのこと。これまでの生活や子育てについて話していただきました。

第4回 保護者体験談編

愛知県蒲都市 3人のお子さんを育てた Mさんの場合

夫が事故に遭ったのは17年前の春でした。事故直後、一命は取り留めていて、それからしばらくは病院で治療をしていました。でも、約1か月が過ぎたところに突然亡くなってしまったのです。入院中、会話をすることはできませんでしたが、彼の意識はしっかりしていて目線で意思疎通ができていたので、私は徐々に回復すると思っていた。だから、亡くなったとき本当にショックで……。ただ、悲しみよりも「子どもたちのために私がしっかりしなくちゃ」という思いが強くて、その後、自分ではわりと元気に子どもたちと暮らしを営んでいるつもりでした。

ところが、事故から1年が経ったころ、汗が止まらなくなったり、外に出るのが億劫になったりして、急に体調が悪くなったのです。病院で診てもらうと、自律神経に支障が出ているとのこと。それまで自分では全く気がつかなかったのですが、心も体も無理をしていたんですね。そこで、家で面倒をみていた次男を保育園に預けて体を休める時間を作り、カウンセリングを受けながら家事と育児をすることにしました。そうするうちに薄皮をはがすようにでしたが、少しずつ回復していくことができました。

子どもとは遠慮せず話し合い、対峙する

子育ては、長男・長女はさほど大変ではなかったのですが、次男に苦労しました。中学3年生から「学校へ行くのがつまらない。僕は画家になる」と言って登校拒否をするようになって、説得して高校へも進学させたのですが、最終的には中退することになりました。その間、息子をなだめたり、怒鳴ったり、毎日戦争のような日々……。最終的には私が根負けした感じですかね(笑)。とことん向き合ったからでしょうか、ふしぎなことに時間とともに絡まっていた息子との関係が徐々にほどけていき、息子も私も言いたい

ことを言いながら、穏やかに暮らせるようになりました。現在、次男は家事を手伝うこと、一定の生活費を支払うことを条件に、家で絵を描きながら画家を目指しています。いまは、子育ては子どもを信じて受け入れることが重要なんだと思っています。

溜めこまないで、気持ちを話して

私が「スマイルズ」の保護者の皆さんにアドバイスをするとしたら、「無理をせず、自分の中にすべて抱え込まないこと」ですね。悩みや相談事があったなら、誰かに話す聞いてもらっただけでも気持ちが楽になります。もし言える人がいないなら、私のようにカウンセリングを受ける形でも構わないと思います。子どもとの関係も無理をしないことが重要だと思います。長男と長女が大学進学をする際に、私は子どもたちに学費は出せないこと、けれども進学のための奨学金制度があることなどを話して、どうするかは本人の意志に任せました。その結果、子どもたちは奨学金制度を利用して進学し、それぞれ自身の人生を納得して歩んでいてくれています。そんな子どもたちの姿を観ていて最近は私自身も頑張らなくちゃと本当に思います。大事なことはお互いの想いを語り合うことだと思うんですね。そうすると、何かしらの道筋が見えてきますし、家族の絆も深まる気がするのです。

〈編集部より〉

Mさんは、4年前から中高一貫の男子校の寮母さんの仕事をしているそうです。寮生たちの身の回りの世話は、これまでしてきた主婦のスキルが活きる仕事でやりがいを感じているそうですが、より面白いのはさまざまな寮生たちと接することだそうです。子育てをした経験が活きて、どんな個性の子どもに対しても余裕を持って対応し、楽しく会話ができると教えてくださいました。子育てを終えたMさんのこれからの人生が、今後ますますステキなものになりますように、編集部一同、願っています!!